

安倍総理が理研 CDB を視察

2017 年 6 月 29 日

6 月 24 日、安倍晋三内閣総理大臣が理研 多細胞システム形成研究センター（CDB）を視察した。理研 CDB では濱田博司センター長が研究概要を紹介するとともに、発生生物学などの基礎研究が現在の再生医療や創薬といった応用研究の基盤になっていることを説明した。続いて、京都大学 iPS 細胞研究所の江藤浩之副所長が、同研究所における取り組みや iPS 細胞を用いた新薬開発の可能性などについて説明した。



iPS 細胞、網膜色素上皮細胞などのサンプルを観察しながら説明を受ける安倍総理。左から、安倍総理、高橋政代プロジェクトリーダー、松本紘理事長、栗本康夫眼科部長。

続いて安倍総理は、高橋政代プロジェクトリーダー（網膜再生医療研究開発プロジェクト）から、iPS 細胞を用いた臨床研究の進捗状況について説明を受け、実際に移植に用いられた iPS 細胞由来の色素上皮細胞（RPE 細胞）を含む液（懸濁液）などを観察した。安倍総理は、実用化に向けた取り組みなどについて質問し、神戸市立医療センター中央市民病院の栗本康夫眼科部長や高橋プロジェクトリーダーらと意見を交わした。その後、松本紘理化学研究所理事長が進行を務める懇談の中で、安倍総理は iPS 細胞を用いた再生医療および創薬の分野で今後も世界をリードするよう期待を寄せた。